

韓国語の「事物尊称」について

丁 仁京

キーワード：主体尊敬語尾 ‘-시 si-’、事物尊称、対者敬語化、敬意低減

要旨

本稿では、韓国語の主体尊敬語尾 ‘-si-’ を無情物などに用いる「事物尊称」が出現したメカニズムと成立条件について考察を行った。事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という限られた状況の下で、①「所有者の拡張」に基づく素材敬語という側面と、②対者敬語としての側面を合わせ持つ表現と考えることができる。事物尊称の ‘-si-’ は、完全に対者敬語化しているわけではないが、常に丁寧表現とともに用いられることから考えて、対者敬語的な性格を持つと考えられる。

1. はじめに

韓国語の敬語は、日本語と同様、素材敬語と対者敬語に分かれる。素材敬語の代表は主体尊敬を表す ‘-si-’⁽¹⁾である。(1)は ‘-si-’ を用いない例、(2)は ‘-si-’ で主体（主語）である「선생님（先生）」に対する敬意を表した例である⁽²⁾。

(1) 동생이 온다.

dongaeng-i o-n-da.
弟(妹)・NM 来る・PRE-DEC
(弟(妹)が来る。)

(2) 선생님이 오신다.

seonsaeng-nim-i o-si-n-da.
先生・様・NM 来る・SH-PRE-DEC
(先生がおいでになる。)

主体の身体部分や所有物の属性を述べる文に ‘-si-’ を用いて、間接的に主体である人物に対する敬意を表すこともある。次の(3)では、「선생님（先生）」「아버지（父）」「고객님（お客様）」の所有物である「키（背）」「지팡이（杖）」「성함（お名前）」の属性を述べる文に ‘-si-’ が用いられている（허웅（ホ・ウン）1962 など）⁽³⁾。

- (3) a. 선생님은 키가 크시다.
 seonsaeng-min-eun ki-ga keu-si-da.
 先生様-TOP 背-NM 高い-SH-DEC
 (先生は背がお高い。)
- b. 아버님께는 지팡이가 있으시다.
 abeo-nim-kke-neun jipangi-ga iss-eusi-da.
 お父様-に-TOP 杖-NM ある-SH-DEC
 (お父様には杖がおありだ。)
- c. 고객님의 성함이 어떻게 되십니까?
 gogaeg-nim seogham-i eotteoh-ge doe-si-bnikka?
 顧客-様 お名前-NM どのように-に なる-SH-POL₁-Q
 (お客様のお名前は何とおっしゃいますか。)

『延世韓国語辞典』(延世大学校言語情報開発研究院 1998)でも、‘-si-’には、①行動や状態など述語の主体を高め尊敬する意味を表す場合(例(4))と、②尊敬の対象になる人物と関連する体の一部や所有物などが主体である文に用いられ、その人物を間接的に高める場合(例(5))があると記述されている。

- (4) 선생님, 어디 가시는 길이세요?
 seonsaeng-nim eodi ga-si-neun gil-i-se(si-eo)-yo?
 先生様 どこ 行く-SH-ADN ところ-COP-SH-POL₂-Q
 (先生、どこへ行かれるところですか。)
- (5) 선생님 택이 학교에서 꽤 머시지요?
 seonsaeng-nim daeg-i haggyo-eseo kkoe meo-si-ji-yo?
 先生様 お宅-NM 学校-から かなり 遠い-SH-FIN-POL₂-Q
 (先生のお宅は学校からかなりお遠いでしょう?)

このように、主体尊敬の‘-si-’は主体である人物に対する敬意を表すが、近年これから逸脱する形で‘-si-’が用いられることがある。次の(6)~(10)は筆者が直接聞いた例であるが、このような発話はとりわけサービス業界ではかなり多く見られ、「事物尊称」あるいは「百貨店敬語」と言われている(以下「事物尊称」と呼ぶ)。

- (6) (コーヒーショップで)
 店員: 아메리카노 나오셨습니다.
 amelikano nao-si-eoss-seubnida.
 アメリカン 出てくる-SH-PST-POL₁-DEC
 (アメリカン出てこられました。)

(7) (あるブランド品の店で)

店員：이 상품은 요즘 잘 나가세요. 한번 입어 보시겠어요?

i sangpum-eun yojeum jal naga-se(si-eo)-yo.

この 商品-TOP この頃 よく 売れる-SH-POL₂-DEC

han-beon ib-eo bo-si-gess-eoyo?

一度 着る-てみる-SH-POL₂-Q

(この商品はこの頃よくお売れになります。一度着てみられますか。)

(8) (デパートで)

店員：이 상품은 30% 세일이세요.

i sangpum-eun 30% seil-i-se(si-eo)-yo.

この 商品-TOP 30% セール-COP-SH-POL₂-DEC

(この商品は 30%セールでいらっしやいます。)

(9) (鶏料理の専門店で、客自身が食べている料理について店員に)

客：이거 한 마리예요? 반 마리예요?

igeo han mali-ye(i-eo)-yo? ban mali-ye(i-eo)-yo?

これ 一 匹-COP-POL₂-Q 半 匹-COP-POL₂-Q

(これ一匹ですか。半分ですか。)

店員：소는 반 마리시고요, 중은 한 마리입니다.

so-neun ban mali-si-go-yo, jung-eun han mali-si-bnida.

小-TOP 半 匹-(COP)-SH-て-POL₂ 中-TOP 一 匹-(COP)-SH-POL₁-DEC

(小は半分でいらっしやいまして、中は一匹でいらっしやいます。)

(10) (ホテルフロント案内員：電話対応)

客：저기 혹시 사우나에 때밀이도 있나요?

jeogi hogsi sauna-e ttaemili-do iss-na-yo?

あの ひょっとして サウナ-に アカスリ-も ある-POL₂-Q

(あの、ひょっとしてサウナにアカスリもありますか。)

案内員：저희 사우나에는 때밀이는 없으신데요.

jeohui sauna-e-neun ttaemili-neun eobs-eusi-n-de-yo.

私ども サウナ-に-TOP アカスリ-TOP ない-SH-ADN-が-POL₂-DEC

(私どものサウナにはアカスリはおありではありませんが。)

(6)は「아메리카노 (アメリカン)」、(7)(8)は「이 상품 (この商品)」、(9)は「소 (小)」
「중 (中)」、(10)「때밀이 (アカスリ)」が主体であり、次の(6')~(10')のように言う
のが規範的である。

(6') 아메리카노 나왔습니다.

amelikano nawa-ss-seubnida.

アメリカン 出てくる-PST-POL₁-DEC

(アメリカン出てきました。)

(7') 이 상품은 요즘 잘 나가요. 한번 입어 보시겠어요?

i sangpum-eun yojeum jal naga-yo.

この 商品-TOP この頃 よく 売れる-POL₂-DEC

han-beon ib-eo bo-si-gess-eoyo?

一度 着る-てみる-SH-POL₂-Q

(この商品はこの頃よく売れます。一度着てみられますか。)

(8') 이 상품은 30% 세일이에요.

i sangpum-eun 30% seil-i-eyo.

この 商品-TOP 30% セール-COP-POL₂-DEC

(この商品は30%セールです。)

(9') 소는 반 마리고요, 중은 한 마리입니다.

so-neun ban mali-go-yo, jung-eun han mali-bnida.

小-TOP 半 匹-(COP)-て-POL₂ 中-TOP 一 匹-(COP)-POL₁-DEC

(小は半分でして、中は1匹です。)

(10') 저희 사우나에는 때밀이는 없는테요.

jeohui sauna-e-neun ttaemili-neun eobs-neun-de-yo.

私ども 사우나-に-TOP 아카스리-TOP ない-ADN-が-POL₂-DEC

(私どものサウナにはアカスリはありませんが。)

筆者はこのような表現を 2005 年ごろからデパートやホテルなどでしばしば耳にした。次のようにマスメディアでも話題にされている。

- ・〈‘0 만원이십니다’ … ‘과잉존대’ 가 거북해 (‘0 万ウォンでいらっしゃいます’ … ‘過剰尊敬’ がぎこちない)〉 (아이뉴스 (inews)、2008-02-22)
- ・〈‘5 만원이세요’ 는 기형적 표현 (‘5 万ウォンでいらっしゃいます’ は奇形的な表現)〉 (중앙일보 (中央日報)、2009-08-25)
- ・〈이 스파게티는 면이 굵으십니다 (このスパゲティは麺がお太いです)〉 (한국경제 (韓国經濟)、2010-02-26)
- ・〈존댓말 실종사건, ‘손님 거스름돈 900 원이십니다’ (尊敬語失踪事件、‘お客様お釣り 900 ウォンでいらっしゃいます’)〉 (뉴스한국 (ニュース韓国)、2010-09-19)

2012 年 9 月 22-23 日付의 동아일보 (東亞日報) 〈사물존칭, 표준말 될라 (事物尊称、

標準語になるかも)〉によれば、東亜日報が国内の通信社である KT、SK テレコム、LG ユプラスのコールセンターのオペレーター665 名にアンケート調査をした結果、「事物尊称が文法的に誤っていることを知っているか?」という質問に、569 人 (86%) が「知っている」と答えたという。また、この 569 人の中で 394 人 (69%) が間違った文法だと思いつつも、事物尊称を「時々」「ほとんど」「毎度」使うと答えたという。この記事からも、事物尊称が広まっている一方で誤用であると認識されていることがわかる。

事物尊称は、主体の身体部分や所有物の属性を述べるわけではない点で、(3)のような間接的に主体である人物に対する敬意を表す文とは異なる。本稿では、なぜこのように ‘-si-’ を無情物に用いる事物尊称が出現したのか、その背景について考察する。

2. 先行研究

主体の身体部分や所有物の属性を述べていない文で ‘-si-’ を無情物に用いるケースについては、先行研究でも部分的にはとりあげられている。

허웅 (ホ・ウン) (1995:1050-1078)では、(11)のような ‘-si-’ は事物主語を通じて聞き手を間接的に高めるものと解釈している。しかし、(11a)は、聞き手の行動である「이것 (これ)」を高めることにより間接的に聞き手を高めているが、モノを主語にするわけではない点で事物尊称とは異なる。

(11) a. 점잖으신 어른이 이게 무슨 짓이세요?

jeomjanh-eusi-n eoleun-i ige(igeos-i) museum jis-i-se(si-eo)-yo?

礼儀正しい-SH-ADN 大人-NM これ-NM 何の まね-COP-SH-POL₂-Q

(礼儀正しい大人がこれは何のまねでいらっしゃいますか。)

b. 이것들 가운데 어느 것이 좋으실지요?

igeos-deul gaunde eoneu geos-i joh-eusi-l-ji-yo?

これら 中 どれ-NM 良い-SH-ADN-FIN-POL₂-Q

(これらの中でどれが良いでしょうか。)

박석준 (パク・ソクジュン) (2004)は、(12)のような例について、話し手が尊敬の対象である聞き手と、聞き手に向かった発話との構造的な関係を「主語－述語」の構造関係と同様のものと把握している。つまり、「主語－述語」の枠組みの中で使われる ‘-si-’ が、「聞き手－聞き手に向かった発話」のような枠組みにまで用法が拡大している」と指摘し、このように、「非文法的な ‘-si-’ の用法も文の主語が指し示す人物に対する話し手の尊敬とする ‘-si-’ の基本的な意味と機能が語用論的に拡張され用いられていると理解することができる」と述べている。

(12) a. 실례지만 지금 몇 시쯤 되셨어요?

sillye-jiman jigeum myeoch si-jjeum doe-si-eoss-eoyo?
失礼-(COP)-けど今 何 時-くらい なる-SH-PST-POL₂-Q

(失礼ですが、今何時くらいになられましたか。)

b. 그 양복 비싸시지요?

geu yangbog bissa-si-ji-yo?
その 背広 高い-SH-FIN-POL₂-Q

(その背広お高いでしょう?)

しかし、박석준(2004)では、‘-si-’が本来の機能から「語用論的に「聞き手-聞き手に向かった発話」に拡張され用いられる」としながらも具体的な成立条件などについては明確にされていない。

이정복 (イ・チョンボク) (2006, 2010)は、‘-si-’は動作や状態の主体のほか、状況の主体を高める主体尊敬の機能を持つとし、次の(13)のような事物尊称の例も、「状況主体尊敬」で説明が可能であるとする。すなわち、「文の表面には現れないが、発話状況で話し手が高めようとする対象を「状況主体（聴者）」と見做し、その人を高めようとする意図から‘-si-’が用いられる」とする。「‘-si-’は主体尊敬とともに、対話場面での状況を支配する聞き手、すなわち呼格語と一致する聞き手を高める機能を合わせ持つ」とし、事物尊称は主体尊敬の用法の枠内にあるとしている。

(13) a. (고객님) (이 상품은) 주문폭주로 배송시일이 소요되는 상품이세요.

(gogaeg-nim) (i sangpum-eun) jumunpogju-lo baesongsil-i
顧客-様 この 商品-TOP 注文暴注-で 配送期間-NM

soyodoe-neun sangpum-i-se(si-eo)-yo.

必要とされる-ADN 商品-COP-SH-POL₂-DEC

((お客様) (この商品は) 注文暴注で配送期間が必要とされる商品でいらっ
しゃいます。)

b. 고객님 버버리상품은 교환 환불 안 되세요.

gogaeg-nim beobeolisangpum-eun gyohwan hwanbul
顧客-様 バーバリー商品-TOP 交換 返済

an doe-se(si-eo)-yo.

NEG なる-SH-POL₂-DEC

(お客様バーバリー商品は交換返済なりません。)

이정복 (イ・チョンボク) 教授は、上述の東亜日報 (2012年9月22-23日) の記事の中でも、事物尊称は「状況主体」、すなわち対話をするときその状況を支配する聞き手 (すなわち客) を高めようとする際に、‘-si-’が用いられると捉え、次のように述べ

ている。

‘-si-’は本来主体である人の行動や状態を高める敬語法であり、一般に主体が主語として現れる。しかし、規範文法的には間違った百貨店敬語は主体（人）が文に現れず、代わりに対話する状況の脈絡の中に存在する。

(略)

“피자가 나오셨다 (ピザが出てこられた)”と店員が話すときには、その店員の意図はピザを高めようとするのではなくピザを食べる客を高めている。

しかし、이정복 (イ・チョンボク) (2006, 2010)も、「状況を支配する聞き手を高める」ということ具体的なメカニズムについては特に述べられていない。

이래호 (イ・レホ) (2013)も、(14)の‘-si-’の尊敬の対象は、呼格語と一致する聞き手であるとし、対者敬語として扱っている。

(14) (고객님이) 자동전화를 이용하시면 (고객님께) 3000 원 추가 할인이 되세요.

(gogaeg-nim-i) jadongjeonwa-leul iyongha-si-myeon (gogaeg-nim-kke)

顧客-様-NM 自動電話-ACC 利用する-SH-ば 顧客-様-に

3000won chuga halin-i doe-se(si-eo)-yo.

3000 ウォン 追加 割引-NM なる-SH-POL₂-DEC

((お客様が) 自動電話を利用なされば (お客様に) 3000 ウォン追加割引にな
られます。)

以上、主体の身体部分や所有物の属性を述べていない文に‘-si-’を無情物に用いる用例について言及されている先行研究を見てきた。しかし、これらの先行研究は、事物尊称の成立条件が明らかにされておらず、また‘-si-’が無情物に用いられるメカニズムも必ずしも具体的に記述されていないという点で不十分であると言える。

3. 事物尊称の成立条件

事物尊称は非規範的な表現である。しかし、その一方で事物尊称は一定の条件のもとで成立しやすくなるということもある。その条件をおさえることは、事物尊称を支えるメカニズムについて考える上で重要である。

第一に、事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という場合に限られる⁽⁴⁾。(15') (16')のように、学生が先生に対して使うことはできない。

(15) (コーヒーショップで店員が客に)

아메리카노 나오셨습니다.

amelikano nao-si-eoss-seubnida.

アメリカン 出てくる-SH-PST-POL₁-DEC

(アメリカン出てこられました。)

(15') (コーヒーショップで先生と一緒にコーヒーを飲んでいる学生が)

*선생님 아메리카노 나오셨습니다.

seonsaeng-nim amelikano nao-si-eoss-seubnida.

先生-様 アメリカン 出てくる-SH-PST-POL₁-DEC

(先生アメリカン出てこられました。)

(16) (デパートで店員が客に)

이 상품은 30% 세일이세요.

i sangpum-eun 30% seil-i-se(si-eo)-yo.

この 商品-TOP 30% セール-COP-SH-POL₂-DEC

(この商品は 30%セールでいらっしゃいます。)

(16') (デパートで学生が先生に)

*선생님 이 상품은 30% 세일이세요.

seonsaeng-nim i sangpum-eun 30% seil-i-se(si-eo)-yo.

先生-様 この 商品-TOP 30% セール-COP-SH-POL₂-DEC

(先生この商品は 30%セールでいらっしゃいます。)

また、聞き手以外の第三者が敬意の対象である場合も事物尊称は成立しない。次の(17)(18)は、いずれも学生がイ先生に、キム先生が注文(購入)したものについて述べている場面である。

(17) (コーヒーショップで学生がイ先生に)

*김 선생님이 주문하신 아메리카노 나오셨습니다.

Kim seonsaeng-nim-i jumunha-si-n amelikano

キム 先生-様-NM 注文する-SH-ADN アメリカン

nao-si-eoss-seubnida.

出てくる-SH-PST-POL₁-DEC

(キム先生が注文なさったアメリカン出てこられました。)

(18) (デパートで学生がイ先生に)

*김 선생님이 사신 이 상품은 30% 세일이세요.

Kim seonsaeng-nim-i sa-si-n i sangpum-eun 30%

キム 先生-様-NM 買う-SH-ADN この 商品-TOP 30%

seil-i-se(si-eo)-yo.

セール-COP-SH-POL₂-DEC

(キム先生が買われたこの商品は 30%セールでいらっしゃいます。)

第二に、事物尊称は常に丁寧表現とともに用いられる。

(19) *아메리카노 나오셨어. / 나오셨다.

amelikano nao-si-eoss-eo. / nao-si-eoss-da.

アメリカン 出てくる-SH-PST-INT-DEC 出てくる-SH-PST-INT-DEC

(アメリカン出てこられたよ。 / 出てこられた。)

(20) *이 상품은 30% 세일이시네. / 세일이시지?

i sangpum-eun 30% seil-i-si-ne. / seil-i-si-ji?

この 商品-TOP 30% セール-COP-SH-FIN-INT-DEC セール-COP-SH-FIN-INT-Q

(この商品は 30%セールでいらっしゃるね。 / セールでいらっしゃるよね。)

以下では、この二つの条件をもとに、事物尊称を支えるメカニズムについて考える。

4. 「所有者」の拡張

まず、事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という場合に限られるという点について考える。

前述のように、事物尊称が使えるのは話し手が店員の場合に限られる。以下、例を追加する。

(21) (デパートで店員が客に)

이 상품은 요즘 잘 나가세요. 한번 입어 보시겠어요?

i sangpum-eun yojeum jal naga-se(si-eo)-yo.

この 商品-TOP この頃 よく 売れる-SH-POL₂-DEC

han-beon ib-eo bo-si-gess-eoyo?

一度 着る-てみる-SH-POL₂-Q

(この商品はこの頃よくお売れになります。一度着てみられますか。)

(21') (デパートで学生が先生に)

*이 상품은 요즘 잘 나가세요. 한번 입어 보시겠어요?

i sangpum-eun yojeum jal naga-se(si-eo)-yo.

この 商品-TOP この頃 よく 売れる-SH-POL₂-DEC

han-beon ib-eo bo-si-gess-eoyo?

一度 着る-てみる-SH-POL₂-Q

(この商品はこの頃よくお売れになります。一度着てみられますか。)

(22) (デパートで店員が客に)

구두 매장은 4 층에 있으십니다.

gudu maejang-eun 4cheung-e iss-eusi-bnida.

靴 売り場-TOP 4階-に ある-SH-POL₁-DEC

(靴売り場は4階におありです。)

(22') (デパートで学生が先生に)

*구두 매장은 4 층에 있으십니다.

gudu maejang-eun 4cheung-e iss-eusi-bnida.

靴 売り場-TOP 4階-に ある-SH-POL₁-DEC

(靴売り場は4階におありです。)

(23) (飛行機のチケットの予約：店員の電話対応)

그 시기는 (비행기가) 뭉비지 않으세요.

geu sigi-neun (bihaenggi-ga) bumbi-ji anh-euse(eusi-eo)-yo.

その 時期-TOP 飛行機-NM 混雑する-NEG-SH-POL₂-DEC

(その時期は(飛行機が)混雑されません。)

(23') (飛行機のチケットの予約：学生が先生に)

*그 시기는 (비행기가) 뭉비지 않으세요.

geu sigi-neun (bihaenggi-ga) bumbi-ji anh-euse(eusi-eo)-yo.

その 時期-TOP 飛行機-NM 混雑する-NEG-SH-POL₂-DEC

(その時期は(飛行機が)混雑されません。)

(21)(22)(23)の主語は、それぞれ「이 상품 (この商品)」、「구두 매장 (靴売り場)」、「비행기 (飛行機)」であるが、これらはいずれも聞き手である客が求めたり探したりしているものである。次の(24)も、「소 (小)」や「중 (中)」は聞き手が食べている料理のことである。

(24) (客が食べている料理について店員が)

소는 반 마리시고요, 중은 한 마리십니다.

so-neun ban mali-si-go-yo, jung-eun han mali-si-bnida.

小-TOP 半 匹-(COP)-SH-て-POL₂ 中-TOP 一 匹-(COP)-SH-POL₁-DEC

(小は半分でいらっしやいまして、中は1匹でいらっしやいます。)

これら事物尊称と言われる用例では、〈話し手 (店員) - 聞き手 (客)〉という状況の下で、話し手である店員が聞き手である客を高め敬意を払おうとする心理により '-si-' が用いられていると考えることができる。また、'-si-' により客を高めることは、例文(5)「先生のお宅は学校からかなりお遠いでしょうか?」のような尊敬の対象になる人物と関連する所有物などが主体である文の「所有者の拡張による主体尊敬」と考えられる。

例えば、(15)「アメリカン出てこられました」の「コーヒー」は、すでに客が購入したものであり、(24)「小は半分でいらっしやいまして、中は1匹でいらっしやいます」の「鶏料理」は、客が食べている料理である。(15)(24)のコーヒーや料理は聞き手である客の所有物として考えることができる。

また、(16)「この商品は30%セールでいらっしやいます」、(21)「この商品はこの頃よくお売れになります」、の「この商品」は、これから客が購入する・購入するであろうものである。(22)「靴売り場は4階におありです」は客が靴を探している状況、(23)「その時期は(飛行機が)混雑されません」は客が飛行機のチケットを求めている状況であり、これから客が購入する・購入するであろう商品として「靴」「チケット」を想定することができる。(16)(21)(22)(23)も広い意味での聞き手である客の所有物として考えることができる。すなわち、「商品」と「聞き手(客)」を関連づけることによって、「所有関係」が成立する。

このように、聞き手である客が商品を「購入したもの・購入するもの・購入するであろうもの」のように考えれば、客は一種の所有者と考えることができ、‘-si-’を用いて無情物を高め、間接的に聞き手に敬意を表すことができる。そのために、事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という限られた状況の下で用いられるのである。

では、本稿で言う「所有者」の拡張と이정복(イ・チョンボク)(2006, 2010)の言う「状況の主体(聴者)」との違いを見てみる。本稿の「所有者」の拡張とは、あくまで所有物を‘-si-’で高めることで、間接的に所有者である聞き手を高めるという素材敬語の拡張として捉えている。一方、이정복(2006, 2010)の「状況の主体」とは、「主体尊敬とともに、対話場面での状況を支配する聞き手、すなわち呼格語と一致する聞き手」である。これは「主語の位置に現れる動作や状態の主体を高めていた‘-si-’の機能が、その主体が誰であるかは関係なく、対話状況を支配する聞き手を高めようとする際に、‘-si-’が用いられる」(이정복 2010:244)ということである。事物尊称を이정복の言う「状況の主体」と捉えるならば、3節で述べた〈話し手(学生)－聞き手(先生)〉という関係でも事物尊称が成立するはずである。しかし、事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という限られた状況の下で用いられ、〈話し手(学生)－聞き手(先生)〉のような関係の会話や聞き手以外の第三者が敬意の対象である場合は、事物尊称は成立しにくい。

韓国語と似た敬語表現を有している日本語では韓国語の事物尊称のような尊敬語の使い方はきわめて不自然である。これはつまり、日本語では韓国語の事物尊称のような「所有者の拡張による主体尊敬」は起きないということである。日本語の主体の所有物は、身体部分・属性・衣類・愛玩動物・作品などがあるが、韓国語の事物尊称のように、これから購入する・購入するであろうものまでは含まれない。

その理由としては、第一に、日韓両言語の敬語表現の体系の違いが考えられる。日本

語の敬語は素材敬語と対者敬語に分けたり、尊敬語・謙讓語・丁寧語のように3分類したり、丁寧語・美化語を加え5分類する考えもある(文化審議会答申2007)。このように、日本語では謙讓語・美化語・丁寧語が発達しており、韓国語に比べ機能の分化が進んでいる。一方、韓国語の場合は素材敬語が少なく⁽⁵⁾、謙讓語においても現在は衰退し少数の語彙にしか残っていない⁽⁶⁾。このように、謙讓語や美化語が発達していない韓国語では、主体尊敬語尾の‘-si-’を用いて「かしこまり」「聞き手への配慮」の気持ちを表していると考えられる。

第二の理由として、日本語の尊敬表現が「られる」「いらっしゃる」「お~になる」のような述語形式であるのに対し、韓国語の‘-si-’が先語末語尾であることが関わっている可能性がある。文法的に軽い形式であるために、述語形式よりも使いやすいということである。

5. ‘-si-’の対者敬語的側面

次に、事物尊称が常に丁寧表現とともに用いられるという点について考える。

これに似た現象として、日本語の丁寧語を挙げることができる。「まいる」「いたす」「申す」などの丁寧語は、常に「まいります」「いたします」「申します」と丁寧表現とともに用いられる。丁寧語は対者敬語の一種であるが、事物尊称の‘-si-’も丁寧語的な性格を持つと考えることができる⁽⁷⁾。

‘-si-’が対者敬語的に用いられるのは事物尊称だけではない。‘-si-’の規範的な用法から逸脱する用法として、主体である話し手自身や話し手と関連する団体や人物、商品などに対して‘-si-’を用いるというものがある。

(25) 저희가 내일 연락해 드리실게요.

jeohui-ga naeil yeonlagha-e deuli-si-l-ge-yo.

私ども-NM 明日 連絡する-差し上げる-SH-ADN-FIN-POL₂-DEC

(私どもが明日連絡して差し上げられます。)

(26) 저희 매장은 세일 안 하세요.

jeohui maejang-eun seil an ha-se(si-co)-yo.

私ども 売り場-TOP セール NEG する-SH-POL₂-DEC

(私どもの売り場はセールなさいません。)

(27) 저희 사우나에는 때밀이는 없으신데요.

jeohui sauna-e-neun ttaemili-neun eobs-eusi-n-de-yo.

私ども サウナ-に-TOP アカスリ-TOP ない-SH-ADN-が-POL₂-DEC

(私どものサウナにはアカスリはおありではありませんが。)

‘-si-’のこのような用法も、‘-si-’が一種の対者敬語として用いられていると考え

られる。実際この種の用法は、話し手である店員が主体の場合に限られる。

(28) *김 군이 선생님께 내일 연락해 드리실 거예요.

Kim gun-i seonsaeng-nim-kke naeil yeonlagha-e

キム 君-NM 先生-様-に 明日 連絡する-

deuli-si-l-geoye-yo.

差し上げる-SH-ADN-だろう-POL₂-DEC

(キム君が先生に明日連絡して差し上げられるでしょう。)

(25)(26)(27)では「저희 (私ども)」という表現で話し手を低め(謙讓し)ているが、話し手はそれだけでは不足と考え、それを補うために‘-si-’が用いられていると考えられる。これらの主体は、確かに話し手自身である1人称に属するものではあるが、その行為などは客へのサービスの提供であり、最終的には尊敬の対象者である聞き手の利益または聞き手が利用するものである。とするならば、これらの用例は、前節でみた主体尊敬の拡張が更に拡張されていると考えられるだろう。しかし、この用法を単に主体敬語の拡張と考えるよりは、敬意の対象となるはずのない話し手が行為の主体であり、このことから聞き手を意識した対者敬語として機能していると捉えてもよいのではないだろうか。

3節で見たように、事物尊称には一定の制約があり、事物尊称の‘-si-’が完全に対者敬語化しているわけではない。しかし、事物尊称の‘-si-’が常に丁寧表現とともに用いられることから考えても、事物尊称の‘-si-’が対者敬語的な性格を持つということは十分に考えられる。事物尊称の‘-si-’は、①「所有者の拡張」に基づく素材敬語という側面と、②対者敬語としての側面を合わせ持つ表現と考えることができるだろう。

現代韓国語では、聞き手に敬意を払う場合には、主に‘합니다 hamnida 体’と‘해요 haeyo 体’が用いられる⁽⁸⁾。しかし、最も丁寧さが高いとされる格式体‘합니다 体’も、現在では非格式体‘해요 体’との丁寧さの差がなくなりつつある。문혜심 (ムン・ヘシム) (2009)で行った「職員が客に実現した敬語法の混用の様相」に関する調査によれば、職員は客に‘합니다 体’と‘해요 体’を主に混用するが、その比率は‘합니다 体’は32.2%、‘해요 体’は37.8%を占めている。このように、‘합니다 体’と‘해요 体’の差がなくなり、これらの両形式が多用されることで敬語の程度が下がり、低減した敬意を補完するために新たな形式が求められることになった。‘-si-’が対者敬語的に用いられるのも、それを補完するためと考えられる。また、〈話し手(店員)－聞き手(客)〉というサービス業界では、話し手は聞き手を常に高める必要があり、話し手は聞き手に対して最大限に敬意を払わなければならないという社会的戦略によるものと考えられる。

6. まとめ

本稿では、韓国語の主体尊敬の‘-si-’を無情物などに用いる「事物尊称」が出現した具体的なメカニズムと成立条件について考察を行った。

事物尊称は「話し手である店員が聞き手である客に対する敬意を表す」という限られた状況の下で、①「所有者の拡張」に基づく素材敬語という側面と、②対者敬語としての側面を合わせ持つ表現と考えることができる。この事物尊称の‘-si-’は、完全に対者敬語化しているわけではないが、事物尊称の‘-si-’が常に丁寧表現とともに用いられることから考えても、事物尊称の‘-si-’が対者敬語的な性格を持つということは十分に考えられる。

韓国語の事物尊称の‘-si-’は素材敬語から対者敬語への変化の過渡期にあると言える。今後の課題として、この事物尊称の‘-si-’がデパートなどのサービス業界だけにとどまっているのか、あるいは一般的な会話にまで広まっているのかについての広範囲な実地調査に基づく考察が必要である。

[注]

- (1) ‘-si-’は、母音語幹とㄷ 1語幹につく場合は‘-시 si-’、ㄷ 1語幹以外の子音語幹につく場合は‘-으시 eusi-’となる。
- (2) 韓国語ローマ字表記は、韓国文化観光部のローマ字表記法（第2000-8号）に従う。また、韓国語文献や例文の日本語訳は筆者による。
- (3) 例文(3)のような二重主語文については、尊敬の対象になる主体を間接的に尊敬するという「主体尊敬説（間接尊敬説）」(허웅 (ホ・ウン) 1962, 1975, 성기철 (ソン・キチョル) 1984 など)の他に、‘-si-’は主題化された要素と関連を結ぶという「主題尊敬説」で説明する研究もある(임홍빈 (イム・ホンビン) 1976, 서정수 (ソ・チョンス) 1977, 1984 など)。성기철(1985)では、二重主語文に使われる‘-si-’について、‘-si-’が「所有主、行為主、経験主、非分離性」上位主体を高める機能を持っていると記述している。二重主語文に使われる‘-si-’については、서정수(1977)、성기철(1985)、한길 (ハン・キル) (2000)などを参考されたい。
- (4) 筆者は事物尊称に違和感がある。しかし、〈話し手(店員)－聞き手(客)〉のような状況では完全に非文法的とまでは言えないという内省を有するが、それに比べ、(15’)(16’)の〈話し手(学生)－聞き手(先生)〉のような一般的な会話では、そもそも不自然に感じられる。この(15)(15’)(16)(16’)の文法性について、筆者を含め15名の韓国語話者に判断を仰いだ。その結果、13名は筆者と同様の結果が出たが、1名(20代)のみ、(15’)(16’)について、あまり違和感がないという結果が出た。
- (5) 素材敬語が語形の上に現れるのは、名詞・人称代名詞・用言・助詞・先語末語尾などである。そのうち、名詞・人称代名詞・助詞・用言は文法的な手段を通じて規則的

に表れるものではなく、特定のいくつかの語彙にすぎない。例えば名詞の場合は、「밥 (bab/飯) →진지 (jinji/お食事)」、「나이 (nai/年齢) →연세 (yeonse/おとし)」などがある。助詞の場合も尊敬語があり、主格助詞「-께서 kkeseo」、与格助詞「-께 kke」が存在する。人称代名詞の場合は、自称代名詞は「저 (jeo/わたくし)」「나 (na/私、僕、俺)」、対称代名詞は「당신 (dangsin/あなた)」「자네 (jane/お前、君)」「너 (neo/お前、君)」がある。用言に現れる尊敬の形式は単純であり、特殊な尊敬用言である「먹다 (meogda/食べる) →잡수시다 (jabsusida/召し上がる)」「자다 (jada/寝る) →주무시다 (jumusida/お休みになる)」などを除いては、用言の語幹に先語末語尾 ‘-si-’ をつけて尊敬語にするのである。

- (6) 現在残っている韓国語の謙讓語としては、「묻다 (mudda/問う) →여쭙다 (yeojjubda/伺う)」「주다 (juda/あげる) →드리다 (deulida/差し上げる)」「보다 (boda/見る) →뵈다 (boebda/お目にかかる)」などがある。
- (7) 日本語の丁重語は謙讓語Ⅱと言われるように謙讓語との関係が深い。その点、事物尊称の ‘-si-’ を丁重語というのは検討を要する部分もあるが、素材敬語の対者敬語化という点は一致している。
- (8) 現在の韓国語では、対者敬語法を担っている文末語尾の体系が、格式体は ‘합니다 habnida 体’ ‘해라 haela 体’、非格式体は ‘해요 haeyo 体’ ‘해 hae 体’ のように非常に単純化され使用されている。一方、中称である ‘하오 hao 体’ と等称である ‘하게 hage 体’ は殆んど使われず、若い人にはあまりなじみのない語形である。

略語とその意味

ACC:Accusative particle (対格助詞)、ADN:Adnominal modifier suffix (連体形語尾)、COP:Copula (指定詞)、DEC:Declarative suffix (平叙文表示形式)、FIN:Final form (終助詞)、INT:Intimate suffix (非格式体非丁寧形)、NEG:Negative (否定)、NM:Nominative particle (主格助詞)、POL₁:Formal Politeness suffix (格式体丁寧形)、POL₂:Informal Politeness suffix (非格式体丁寧形)、PRE:present (現在・非過去)、PST:Past tense and perfect aspect suffix (過去表示形式)、Q:Question marker (疑問表示形式)、SH:Subject honorific suffix (主体尊敬語尾)、TOP:Topic-contrast particle (主題助詞)

参考文献

- 梅田博之 (1977)「朝鮮語における敬語」『岩波講座 日本語 4 敬語』岩波書店、pp.248-270
梅田博之 (1987)「韓国語の敬語」『言語』16-8、大修館書店、pp.32-37
文化審議会答申 (2007)「敬語の指針」文化庁 http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf

- 문혜심 (ムン・ヘシム) (2009) 「높임법의 뒤섞임 현상 연구—TV 드라마 대본을 중심으로— (敬語法の混用現象の研究—TV ドラマ台本を中心に—)」 『국어 높임법의 발달 (国語敬語法の発達)』 박문사, pp.125-201
- 박석준 (パク・ソクジュン) (2004) 「선어말어미 ‘-시-’의 문법외적 용법에 관하여 (先語末語尾 ‘-si-’ の文法外的用法について)」 『한말연구 (ハンマル研究)』 4, pp.201-220
- 박양규 (パク・ヤングユ) (1975) 『존대와 겸양, 국어사 자료와 국어학의 연구 (尊待と謙讓、国語史資料と国語学の研究)』 문학과 지성사
- 서정수 (ソ・チョンス) (1977) 「주체대우법의 문제점 (主体待遇法の問題)」 『배달말 (ペダルマル)』 2, pp.5-22
- 서정수 (1984) 『존대법의 연구 (尊待法の研究)』 한신문화사
- 서정수 (2006) 「대우법 (待遇法)」 『국어문법 (国語文法)』 한세본, pp.971-1030
- 성기철 (ソン・키철) (1984) 「현대 국어 주체 대우 연구 (現代国語の主体待遇研究)」 『한글 (한글)』 184, pp.81-112
- 성기철 (1985) 『현대국어 대우법 연구 (現代国語の待遇法研究)』 개문사
- 연세대학교 언어정보개발연구원 (延世大学校言語情報開発研究院) (1998) 『연세 한국어 사전 (延世韓国語辞典)』 두산동아
- 이래호 (イ・レホ) (2012) 「선어말 어미 ‘-시-’의 청자 존대 기능에 대한 고찰 (先語末語尾 ‘-si-’ の聴者尊待機能に関する考察)」 『언어학연구 (言語学研究)』 23, pp.147-166
- 이정복 (イ・チョン복) (2006) 「국어 경어법에 대한 사회언어학적 접근 (国語敬語法に関する社会言語学的接近)」 『국어학 (国語学)』 47, pp.407-448
- 이정복 (2010) 「상황 주체 높임 ‘-시-’의 확산과 배경 (状況主体敬語 ‘-si-’ の拡散と背景)」 『언어과학연구 (言語科学研究)』 55, pp.217-246
- 임동훈 (임・톤퐁) (2000) 『한국어 어미 ‘-시-’의 문법 (韓国語の語尾 ‘-si-’의 文法)』 국어학총서 37, 태학사
- 임홍빈 (임・혼빈) (1976) 「존대·겸양의 통사 절차 (尊待·謙讓の統語的手順)」 『문법연구 (文法研究)』 3, pp.237-264 (임홍빈 1998, pp.143-169 に再録)
- 임홍빈 (1985) 「{-시-}와 경험주 상정의 시점 ({-si-}と經驗主想定の視点)」 『국어학 (国語学)』 14, pp.287-320 (임홍빈 1998, pp.97-142 に再録)
- 임홍빈 (1998) 『국어 문법의 심층 1 (国語文法の深層 1)』 태학사
- 한 길 (한·킬) (2000) 『현대 우리말의 높임법 연구 (現代ウリマルの敬語法研究)』 역락
- 허 웅 (호·운) (1962) 「“존대법”의 문제를 다시 논함 (“尊待法”의 문제를再び論ずる)」 『한글 (한글)』 130, pp.423-441

허 응 (1975) 『우리 옛말본 (ウリエッマル本)』 샘 문화사

허 응 (1995) 『21 세기 우리말의 형태론 (21 世紀ウリマルの形態論)』 샘 문화사

〔付記〕 本稿の執筆にあたり、査読をしてくださったお二人の先生に貴重なご助言を頂いた。心より感謝申し上げます。なお、本研究は麗澤大学大学院ポストドクターの研究成果である。